

## 主題：聖書の核心

### メッセージ 2

#### 創世記における核心 (2)

聖書：創 5:22-24. 6:8. 使徒 7:2. ローマ 4:12. 創 26:12-13. 28:10-22. 45:5. 50:20

#### III. 創世記において召会の構成要素は、アダム、アベル、エノス、エノク、ノア、アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフによって予表されています——ガラテヤ6:16：

D. エノクは信仰によって神と共に歩み、死を免れて、彼が神に喜ばれていたという証しを得ました——創 5:22-24. ヘブル 11:5-6。

1. 神と共に歩むとは、彼をわたしたちの中心またすべてとすること、神にしたがって神と共に、彼の啓示と導きにしがって生活し事を行なうこと、彼と共にすべてを行なうことです——ローマ 8:4, 13-14. ガラテヤ 2:2 前半. II コリント 5:14-15。
2. 神と共に歩むとは、信仰によって歩むことです。信仰が意味するのは、「神はある」ことをわたしたちが信じることです——7 節. ヘブル 11:5-6, 1-2. II コリント 4:13, 18. ヨシュア 9:14 後半。
3. 信仰が意味するのは、神が彼を熱心に尋ね求める者たちに報いてくださる方であることを、わたしたちが信じるということです——ヘブル 11:6. 創 15:1. ピリピ 3:8, 14. 詩 27:4, 8. 42:1-2. 43:4. 73:25. 119:2, 10。

E. ノアの生活は時代を変える生活でした——ピリピ 1:19-21 前半。

1. 神はノアに、彼がその中に生きていた腐敗した時代の真の状態を見せました「『しかし、ノアは』エホバの目に恩恵 [恵み] を得た」。恵みとは、神がわたしたちに来てわたしたちの命の供給、力、すべてとなることです。そのような恵みによって、ノアは肉に打ち勝ち、義なる生活を生きることができました——創 6:8, 3, 5, 11, 13. マタイ 24:37-39. II ペテロ 2:5。
2. ノアが建造した箱船は、神の救いとしての、実際的な現在のキリストの予表です。箱船を建造することは、わたしたちの経験において、神の救いとしての、実際的な現在のキリストを建造することであり、それは団体のキリストとしてのキリストのからだを建造するためです。ピリピ人への手紙によれば、これはわたしたち自身の救いを成し遂げることです——ピリピ 2:12-13。
  - a. 箱船を建造することは、わたしたち自身の救いを成し遂げることであり、わたしたちの経験の中でキリストを建造することでもあり、それはキリストのからだ、すなわち団体のキリストを建造するためです。
  - b. ノアが造り、その中へと入ったものは、神の救い、箱船でした。わたしたちは神の救いとしての、実際的な現在のキリストを持つべきであり、彼の中へと入ることができます。
  - c. わたしたちが今日、経験の中で建造しつつあるキリストが、わたしたちの

将来の救いとなります。ある日、神の主権の下で、わたしたちは自分が建造したキリストの中へと入ります——参照、創 7:7。

- d. 今日でさえ、わたしたちが経験の中でキリストを建造するなら、キリストの中に住み、キリストの中に定住することができます（ヨハネ 15:5）。わたしたちの経験の中でキリストを建造することは、主を愛すること、また主の御名を呼び求めることによって彼に話すこと、また彼と交わり、日ごと時間ごと彼によって生き、彼と共に歩み、神と「共に歩む者」となって、神の同労者となることです（創 5:22-24. 6:9）。

F. アブラハムは信仰によって神の召しに従い、祭壇と天幕の生活をしました——ヘブル 11:8-9. ローマ 4:1, 12. ガラテヤ 3:7. 創 12:1-3, 7-8. 13:3-4, 18。

1. 神は栄光の神、すなわち、ご自身の本質をアブラハムの中へと注入する方としてアブラハムに現れることによって、アブラハムを召しました。神の栄光はアブラハムにとって大きな吸引でした。それは彼をこの世から神へと分離しました。またそれは大きな励まし、また力であり、それによって彼は神に従うことができました。同じ原則で、神はご自身の目に見えない栄光によって、新約の信者たちを召します——使徒 7:2. 出 29:43. 創 12:1, 4. II ペテロ 1:3. 創 15:1。
2. アブラハムの信仰は彼自身から生じたものではありません。むしろ、彼が神を信じることは、神の要素を彼の中へと注入することに対する反応でした——使徒 7:2. ヘブル 12:1-2。
3. アブラハムは祭壇と天幕の生活をしました。わたしたちはアブラハムの信仰の足跡に従って歩こうとするなら、祭壇と天幕を建てなければなりません。祭壇が表徴するのは、わたしたちの地上での生活が神のためであるということです。天幕が表徴するのは、わたしたちがこの世に属さないということです——11:8-9. 創 12:7-8. 13:3-4, 18. ローマ 4:12。
  - a. 祭壇を建てるのが意味するのは、わたしたちがわたしたちであるすべてまたわたしたちが持っているすべてをささげることです。これは神の真の礼拝です。祭壇が意味するのは、わたしたちの生活が神のためであり、神がわたしたちの生活であり、わたしたちの人生の意義は神であるということです——創 8:20. 詩 43:4 前半。
  - b. アブラハムは天幕に住んだことによって、自分がこの世に属するのではなく、地上で寄留者の生活をしたことを証しました。天幕を立てることは、わたしたちがこの世に属さず、別の国、新エルサレムに属するという表現、宣言です——ヘブル 11:9-10, 15-16. 創 12:7-8, 15-16。
4. 信仰によって生きることは、アブラハムが行なったように、キリストの天の務めにおいて彼と協力することであり、祭壇と天幕の生活をするだけだけでなく、兄弟のために戦うことにもよります——創 12:7-8. 14:1-24。
  - a. ソドムの周りの地は豊かであったので、ロトはソドムに向かって旅をしました。最後に、彼はその町へと移住し、そこで生活し、そこに定住しまし

た。神の主権の下で、ソドムは征服され、ロトは捕虜になりました—— 12 節。

- b. アブラハムは自分の兄弟の弱点を勘定したのではなく、ロトの苦難と災難を喜んだのでもありません。アブラハムに関する限り、自分の兄弟が捕らえられるのを見ることは恥でした—— I ヨハネ 5:16 前半、イザヤ 58:6-7、箴 10:12、ヤコブ 5:19-20。
  - c. アブラハムはロトの捕縛についての情報を受けたとき、ロトのために戦うという強い決意をしました。さらに、アブラハムは出て行って戦う前に、祈り、いと高き神、天と地の所有者であるエホバに、手を挙げて誓いました——創 14:14, 22、I テモテ 2:8。
  - d. アブラハムが三百十八人を引き連れて、四人の王たちとその軍隊と戦うことを決意したのは、メルキデゼクがロト、アブラハム、アブラハムの戦いのためにとりなしていたという、その光景の背後の事実によりました——創 14:18-20、ヘブル 7:1-4, 25-26、4:14-16、5:6, 10、8:2、ローマ 8:26-29, 34。
- G. イサクは、神の大いなる喜びのために神の恵みを享受することのモデル、模範でした——創 24:36、25:5、26:3-4, 12-13、ローマ 5:1-2、使徒 4:33、11:23：
- 1. アブラハムの天然の強さと自己の努力が神によって対処された後、イサクが生まれました(創 17:15-19、18:10-14、21:1-7)。これは、イサクが、サラによって表されている(ガラテヤ 4:23-28, 31、I ペテロ 3:7)恵みから生まれたことを暗示しています。
  - 2. 恵みとは、神がキリストの中でその霊としてわたしたちの存在の中へと造り込まれて、わたしたちの享受となって、わたしたちのすべてとなり、わたしたちの中で、わたしたちを通して、わたしたちのためにすべてを行なわれることです。それは、彼がわたしたちの存在の構成要素となって、キリストのからだを建造し、新エルサレムを究極的に完成させることができるためです——ヨハネ 1:16-17、ヘブル 10:29 後半、I コリント 15:10。
  - 3. 神の恵みを享受することはわたしたちの運命です。この運命は、世の基が置かれる前にあらかじめ定められていました——エペソ 1:3-6、2:7。
  - 4. イサクは恵みの中で育ちました。恵みの中で成長するとは、わたしたちにとって霊の食物また生ける水としてのキリストであるすべての享受において成長することです——創 21:8、17:1、26:3、I ペテロ 2:2、I コリント 3:2, 6、エペソ 3:8、4:15。
  - 5. 恵みの霊は(ヘブル 10:29)、命の恵みであり(I ペテロ 3:7)、神のさまざまな恵みであり(4:10)、すべての恵みの神であり(5:10)、すべてに十分な恵みです(II コリント 12:9)。この恵みは今、わたしたちの霊と共にあります(ガラテヤ 6:18、参照、I コリント 15:10)。
  - 6. 日ごとに恵みを受け享受する道は、霊に戻り、霊を活用し、主に御座に着いていただくことです——ヘブル 4:16、ローマ 5:17, 21、使徒 20:32、参照、啓 4:2：
    - a. 神の御座は、流れる恵みの源です。わたしたちは主に御座に着かせず、彼

を御座から下ろす時はいつでも、恵みの流れは止まります—— 22:1. コロサイ 1:18 後半. 啓 2:4。

- b. わたしたちが主イエスにわたしたちの内側で御座に着いていただくなら、命の水の川としてのその霊は恵みの御座から流れ出て、わたしたちを供給します。このようにして、わたしたちは恵みを受け、恵みを受けます—— 22:1. 詩歌 557 番。

- 7. わたしたちが恵みを受用することを通して、神の王国は実用化され、キリストの中におられる神は完全に表現され、永遠に至ります——啓 22:21. ローマ 5:1-2. 14:17. エペソ 2:10。

H. ヤコブの経験は、ベテルの夢によって、すなわち神の家の夢によって支配されました——創 28:10-22：

- 1. ヤコブの夢は、神の目標の夢、ベテルの夢、神の家の夢でした。それは今日、召会であり（I テモテ 3:15）、神と彼の贖われた選民の永遠の住まいである新エルサレムにおいて究極的に完成します（啓 21:3, 22）。
- 2. キリストは彼の人性において、結合するはしごととなって、天（神）と地（人）を結合させて一としました——創 28:12-17. ヨハネ 1:1, 51。
- 3. わたしたちの人の霊も神の住まいです。わたしたちが霊に戻るときはいつでも、わたしたちはキリストが神（天）をわたしたちにもたらし、わたしたちを神（天）に結合させるのを感じます。こういうわけで、天のはしごととしてのキリストは階段であり、神をわたしたちにもたらし、わたしたちを神に結合させます—— 14:6. エペソ 2:22。
- 4. 「イスラエル」は、「神と奮闘する者」（創 32:28, 31-32）また「神の王子」を意味します。クリスチャン生活とは、神と奮闘して、神によって造り変えられて、神の王子となる生活です（参照、ピリピ 4:5-7, 11-13）：
  - a. 造り変えは、信者たちの中の神の命の新陳代謝の機能です。それは、キリストの神聖な命の要素がわたしたちの存在の中へと加えられて、キリストのかたちにおいて外側に表現されたものです——Ⅱコリント 3:18. ローマ 12:2。
  - b. イサク、リベカ、エサウは、ヤコブを造り変えの「オープン」の中へと入れるために神によって用いられました。そして、ラバンとヤコブの妻たちは、そのオープンの中の燃えている「火」でした。ヤコブの歴史が見せているのは、神が主権を持って神の選ばれた人たちの環境の各面を案配し、神が彼らの内側で造り変えの働きを遂行するようにするということです——ローマ 8:28-30。
- 5. 造り変えの過程を通して、ヤコブは神聖な命において円熟して命において王として支配し、彼のつかみ取る手は祝福する手となり、彼の語りかけは神の語りかけとなりました—— 28-29 節. ルカ 18:19. 詩 68:19. 参照、ローマ 5:17：
  - a. 造り変えられるとは、わたしたちの天然の命において新陳代謝的に変えられることです。円熟するとは、わたしたちを変えた神聖な命で満たされる

ことです——ヘブル 6:1。

- b. ヤコブのつかみ取る手は、祝福する手となりました。祝福することは、命のあふれ出です——創 47:7. 48:14-16. 民 6:23-27. II コリント 13:14。
  - c. 神で構成された人として、ヤコブは神で浸透されていました。こういうわけで、彼の語りかけは神の語りかけとなり、彼の言葉は神の言葉となりました——創 49:1. 参照、I コリント 14:31。
6. ヨセフが苦難に打ち勝ったのは、ヤコブの大能の方でありすべてに十分な方である神によって増強されたからであり、彼がすべての事は神によって案配されて自分の祝福となることを見たからです——創 49:24-25. 45:5. 50:20. I コリント 3:21-22. ローマ 8:28. エペソ 5:20. I テサロニケ 5:18。